

银杏散って就活の時季、出るか進むか

先輩、OG/OBに聞く修士の、その後の軌跡

text photo _shiozawa

年 瀬を迎えて相変わらずプロジェクト三昧な生活を送りつつも、「就職活動」「進路」という文字が頭にちらつく今日のこの頃。巷ではスーツ姿に身を包み、手帳を片手にさっそうと行き過ぎるシユウカツ生が目につき始めています。もちろん我が研究室でもちらほらとスーツ姿を見かけるようになっており、それぞれに将来への進路を考えると、そこで、卒業後、就職し社会で活躍しているらっしゃるOBOGの方と、進学して博士課程を送っていらっしゃる先輩に、それぞれの近況報告、兼、経験をふまえたアドバイスを頂きました。

石塚計画デザイン事務所 永井(旧姓 藤本)ふみさん (2004年度 修了)

主な業務内容

- * 地域計画・都市計画
- * CGによる景観シミュレーション
- * 広報紙・ホームページ等の企画編集

私は、修士研究の対象だった条例に仕事で関わっていたコンサルタントに就職しました。他社にも話を聞きに行きましたが、「私もこんな仕事がしたい」「この人たちと一緒に仕事がしたい」という気持ちから最後は一社にしぼり、北沢先生の応援を受けながら面接後も札幌の本社に押しかけプレゼンをしに行きました。それが採用の決め手になった訳ではなかったようですが、昨年度は晴れて「夜・休日こそ市民の方のまちづくりのお手伝い本番!」という仕事をしていました。

現在は職場の理解もあって、楽しく育児休業中です。

現在の職場は基本的に仕事は自分の責任でというスタンスなので、比較的には自由な時間の使い方が可能ですが、やはり忙しいときは忙しいです。都市計画や都市デザインというのは、正解がありませんし、コンサルタントにいてもやはり何かよくわからない。働いてみて、コンサルの限界も感じてきています。ですが、基本的なスタンス(楽しく、暮らしやすいまちをつくりたい!)は学生の頃と変わっていません。

それと、これは私の考えですが、みんなそれぞれ自分の(仕事ぬきでの)「フィールド」を持つことが大事だと思います。多分、就職をすると、業界の立場からくる限界を感じることもあると思いますが、それぞれがフィールドを持って、仕事という範疇にとらわれず思いをぶつけていければ、大げさかもしれませんが、日本は変わるのかなと。

都市環境研究所

倉橋宏典さん
(2004年度 修了)

主な業務内容

- * 広域計画・地域計画
- * 都市総合計画・都市基本計画
- * 土地利用計画
- * 地区整備計画・住環境整備計画
- * 都市再開発
- * 学園都市
- * 都市美・都市景観
- * アーバンデザイン

類設計室

小林有吾さん
(2004年度 修了)

主な業務内容

- * 都市計画
- * 建築設計

(企画、意匠、構造、設備、プロデューサー、ディレクター)

僕が就職活動を始めたのは、1月の中旬くらいからです。プロジェクトの合間を縫ってまずはポートフォリオを作成。コンペや研究室のプロジェクト等をまとめました。その後設計事務所を中心に何社か受けて今の事務所に決定。僕の場合は設計を勉強したい!という思いが強く、かといって行きたい事務所が特にあったわけではなかったので設計の勉強が出来るかどうかを優先しました。

さて、社会人生活ですが、通常は朝9時から1時くらいまででしょうか。週6+1くらいですね。日曜日休めればラッキー。いずれにしても自分が何をやりたいのかによって活動の時期も変わってくると思うので、まずは対象を絞ってみると良いと思います。それでは、がんばってください!

私自身、一度は就職を決定したものの、紆余曲折を経て今日に至るので、参考になるか分かりません(笑)。

実際、就職すると、大学で学び、考えてきた世界とは、多かれ少なかれ乖離があるので、悩むのはやむを得ません。ただ言えることは、最終的な自分の選択に、自信を持つことだと思います。どこへ進んだとしても、無駄な経験は一つもないはずなので。あとは自分の意志と、本当の意味での「縁」です。そう信じれば、素敵な未来が、切り開けるはず。(と、自分にも言い聞かせている、今日の頃です...)

デザイン研博士課程

永瀬節治さん
(01)

- * 新宿プロジェクト
- * 喜多方プロジェクト
- * 八尾プロジェクト

M1のひとりごと その1

学部時代に就活してから早、2年。もう次へ進む道を選ぶ時期が来たのか…。まだ動きだしていませんが。

M1のひとりごと その2

合同説明会に足を運んでみました。それぞれの企業というよりはその人の印象がすごく残っています。人、ありき。かな。

M1のひとりごと その3

都市とか、関係なくてもいろいろ企業を見てみると、それぞれの魅力があっておもしろいなあと思う。



初冬の八尾、 年内最後の調査 12/1~3

text/photo_shizawa

北陸の冬ごもりを感じさせる冷たい空気が漂う師走の八尾で、伊藤、ポンサン、塩澤のM1組が今年最後の八尾入り。今回の訪八の目的は主に4つ。

- 「駐車場と車保有実態の徹底説明」全戸聞き取り調査
- 上新町若者ミーティング
- 八匠さんヒアリング
- 旧町郊外店舗ヒアリング

上新町若者ミーティング

フォーラムを含め今まで何度か上新町の住民の方との話し合いの機会を持つことができましたが、これからの町をつくっていく比較的若い層の方からは、まだ十分にうちに秘めた想いを吸い上げ切れてないのではないかと。そんな思いから今回は20代から40代の方々に普段の生活や、私たちの提案についてお話を伺いました。



2班に分かれてそれぞれ話あい、意見交換

八匠さんヒアリング

八尾の大工棟梁、通称「八匠」。八尾の街並みや住まい方に対する提案を考える上で、八尾を知り尽くすベテランの「八匠」さん方に、八尾の伝統的和風住宅の意匠や、近頃の生活の変化に伴う住宅の作り方の工夫などについてお話を伺いました。

多忙にも関わらず7名もの方にお集まり頂き、経験豊富で幅広い知見からお話をして頂きました。

理事長の石原さんには大変よくしていただき、次の日は実際に建物を見て回り説明をして頂きました。名付けて「八尾棟梁八匠と巡る建築探訪」。伝統の継承と現代のライフスタイルの変化の狭間で、いかに住みよく、また街並みにも配慮した建物をつくるか。乗り越える壁は共通。いざ、2月の第2回フォーラムに向けて、この機会を生かして。



幹で面会見のいい石原さんと、現場で実習

研究室会議

12月7日

- M2 「工業地域再生マネジメント手法TIFに関する研究—シカゴ市とミルウォーキー市を事例として—」 (柴田直)
- M1 「都市圏と都市認識に関する研究—西洋と日本の都市圏を通して—」 (後藤健太郎)

- M1 「都市生活に密着した都市河川空間に関する研究」 (伊藤雅人)

12月8日

- M2 「最小地域コミュニティ主体の街並みづくりを支援する戸田市三軒協定の研究」 (鈴木智香子)
- M1 「歴史的町並みにおける生活景づくりとしての住民団体の活動を誘導・支援する仕組み」 (ジョン・イルジ)

- M1 「Design for a New Urban Image: A Case Study of Odaiba Waterfront City Tokyo」 (ファズリ・ピン・ズビ)
- M2 「住商混在市街地における良好な形成要素に関する研究—自由が丘を事例に—」 (ウィチエンプラティト・ボンサン)
- M1 「東京圏の旧宿場町における空間構造とその変遷に関する研究」 (吉田拓)
- M2 「北関東圏地方都市の地域性に関する研究」 (塩澤詠子)

編集後記 text_shizawa

12月。師走とはよく言ったもの。本当に、あっという間に月日は過ぎて、知らぬ間に年が明けてしまっているのでは……。そんな心配も杞憂ですらばいいのですが、年末も研究室はフル稼働。プロジェクトをやるにも、研究室にこもりっぱなしになるのはなんだか本末転倒な気がして、もっと外に出なければと思いつつ、やはり紙面にまとめて仕上げなければならぬのでパソコンにはばかり向かうことになるのです。それでも本郷の銀杏並木はそんな日々の行き帰りに「季節感」というものを最高に感じさせてくれる感動的な光景でした。あんなに黄色く敷き詰められた銀杏の葉っぱは見たこともなかったし、少し前のギンナン臭さはこの光景を味わうためのムチだったかと思うと納得いきます。個人的には、デスクトップをクリスマスっぽくしてみたり、冬の音楽聞いてみたり、積極的に季節感を味わおうとしているのですが、皆さんはいかがでしょう。研究室で鍋でもしますか。

ご結婚 おめでとうございます

text/photo_shizawa

仙道秘書の送別会

送別会と言えるほどのたいそうな会は開けなかったものの、この度ご結婚なされ、これから産休に入られるということで今月の15日で退職なされたことになった仙道(細野)美美江さん。今までデザイン研の縁の下の力持ちとしていろいろと支えてくださいました。ぜひ、元気なお子さんを産んでください！

数人の有志で密かに安産祈願のお守りを購入。そして心

ばかりの花束とささやかなメッセージカードを添えて。



デザ研OB/OG

2004年度修了星野澄人さんと、2003年度修了、レイさんこと沈曼貞(シンミンジョン)さんが12月3日にご結婚なされました。挙式はグアムにて。末永く、お幸せに。



新刊紹介 鳥海基樹氏

『下流同盟 格差社会とファスト風土』
(朝日新書・720円)

text/photo_bannnai

オーダーメイドのまちづくり』で渋沢・クロード賞ルイ・ヴィトン・ジャパン特別賞を受賞した当研究室OBの鳥海基樹氏(首都大学東京准教授)が、余勢を駆って新書出版。『下流社会』『ファスト風土化する日本』でヒットを飛ばす三浦展氏が編著者となっている本書は、グローバルイゼーション(=アメリカナイゼーション)によって変容した都市と郊外(「ファスト風土」)の諸相を分析するもので、鳥海氏はもちろん、フランスにおける「ファスト風土」について、最終章で論じている。グローバル資本の席捲が、日本のみならず「古いヨーロッパ」であるフランスにおいても仮借なく進行しつつあるさま、郊外問題の深刻化が報告された上で、それに抵抗する

動きとしてダヴィッド・マンジャンによる建築的提案と、「都市計画のがんばり」が紹介される。9階院生室風景の劣化にも舌鋒鋭く切り込んだ(「ブタ小屋化する研究室」)鳥海氏、今後の執筆活動に注目が集まる。

